

令和5年度 年間授業計画

年次	3年次	教科	音楽	教科担任	
学科・専攻	音楽科	科目	音楽理論(演奏研究)	教科書	
履修形態	学校必履修	単位数	1	補助教材	資料 プリント 楽譜

学期	月	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定時数
前期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏研究オリエンテーション ・自然倍音について ・バッハ『平均律クラヴィーア曲集』の比較鑑賞を通し、奏法の特徴を研究する ・古楽器アンサンブルの比較鑑賞を通し、作曲当時の演奏様式を研究する 	演奏における客観性と多様性について理解を深める。 さまざまな音源による比較鑑賞を通し、音楽の様式をふまえた演奏に対する知識を身に付ける。 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	鑑賞等を通して身に付けたさまざまな解釈や様式に即した演奏に関する知識を、各自の専攻実技に関した演奏方法の理解を深めることに役立てることができたか。	6
	5月				
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・モーツァルト『ピアノ協奏曲』の比較鑑賞を通し、当時の様式を踏まえた上でカデンツァの役割について研究する ・モーツァルトの歌曲に関する問題演習を通し、非和声音の取り扱いや特徴的な和声進行の効果について考える 	演奏における客観性と多様性について理解を深める。 さまざまな音源による比較鑑賞を通し、音楽の様式をふまえた演奏に対する知識を身に付ける。 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	鑑賞等を通して身に付けたさまざまな解釈や様式に即した演奏に関する知識を、各自の専攻実技に関した演奏方法の理解を深めることに役立てることができたか。	11
	7月				
8月					
	9月				
後期	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲作品や演奏に関する論文を読み、解釈の多様性について学び自分なりの解釈の方法を考える ・ラヴェルの管弦楽編曲作品を用いて、各楽器の音色の特徴について研究する 	演奏における客観性と多様性について理解を深める。 さまざまな音源による比較鑑賞を通し、音楽の様式をふまえた演奏に対する知識を身に付ける。 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	鑑賞等を通して身に付けたさまざまな解釈や様式に即した演奏に関する知識を、各自の専攻実技に関した演奏方法の理解を深めることに役立てることができたか。	11
	11月				
	12月				
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな変奏曲作品の楽曲分析と鑑賞を通して、それぞれの変奏の特徴と効果的な演奏方法について考察する ・演奏研究のまとめ 	演奏における客観性と多様性について理解を深める。 さまざまな音源による比較鑑賞を通し、音楽の様式をふまえた演奏に対する知識を身に付ける。 音楽作品を尊重して演奏したり鑑賞したりする態度を養う。	鑑賞等を通して身に付けたさまざまな解釈や様式に即した演奏に関する知識を、各自の専攻実技に関した演奏方法の理解を深めることに役立てることができたか。	7
	2月				
3月					